

# 研究の概要

20 22 年 10 月 12 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	より効率的な精子先体反応誘起法の検討 ープロゲステロンと透明帯の相乗効果により精子は先体反応を起こすー
代表研究者 (所属・氏名)：	生殖技術部門・大浦 朝美
研究の目的：	通常の受精過程では卵子細胞質内に先体酵素が持ち込まれないため、先体を除去した精子によるICSIが望ましい。しかし、現状では確実な精子の先体除去法は確立されておらず、ICSIでは卵子細胞質内に先体酵素が持ち込まれている。先体反応誘起物質であるプロゲステロンと透明帯の先体反応率はそれぞれ20~50%程度といわれている。今回、プロゲステロンと透明帯を組み合わせることにより先体反応率が上がるのではないかと考え検討を行った。
調査データ該当期間：	20 21 年 7 月 21 日 ~ 20 22 年 4 月 16 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2021年7月21日~2022年4月16日に体外受精を実施し、研究の同意が得られた症例の体外受精後の余剰精子と余剰卵子または余剰胚の細胞質を除去した透明帯を用いた。プロゲステロン500ng/mlに調整した培養液中に透明帯と精子を共培養し透明帯に付着した精子をインジェクションピペットを用いてスライドガラスに1匹ずつ固定しFITC-PSAにて染色、先体反応率を調べた(P-Z群)。対照として通常培養液中で透明帯に付着した精子(Z群)、500ng/mlプロゲステロン溶液中の運動精子(P群)、通常の体外受精調整精子(swim up群)をそれぞれスライドガラスに固定しFITC-PSA染色をし、先体反応率を調べた。
個人情報の取り扱い：	患者試料を分析する際には、連結可能匿名化をする。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い、符号のみで取扱うので、個人情報は公開されない。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門・大浦 朝美
備考	